



# 大島郡医師会だより

No92 2022.1.1

院丘所ン所丘園  
医虹師会の病業事事業  
訪問看護ステーション所丘園  
訪問看護支援事業  
居宅介護支援事業  
グループホーム虹のなぎさ  
養護老人ホームなぎさ  
臨床検査センター



令和4年、新年の辞

大島郡医師会

会長 向井 奉文

明けましておめでとうござります。

明けましておめでとうござ  
います。

今、おそらくみなさんと同  
様に若干晴れやかな気分で文  
章を認めていきます。と言うの  
も、現在全国から新型コロナ  
が明らかに消滅しつつあるか  
らです。

昨年、我々はコロナワクチ  
ン接種にそれこそ心血を注い  
できました。各会員の並々な  
らぬ協力のお陰で無事終了す  
る事が出来ました。ワクチン  
接種を振り返って観ましょう。  
ワクチン接種の方法として

はセンター方式を採用、その事により一滴のワクチンも無駄にしませんでした。又万全の副反応対策を講じはしましたが幸い大きな事故はありませんでした。ワクチン2回目接種を終えた人の割合は80%を優に超え、県はもちろん全国にしても優秀な成績がありました。

特筆すべきはその効果です。新型コロナ第5波の分析でその事は明白です。昨年12月10日「名瀬保健所管内での感染拡大の振り返り」と題した報告会がありました。その中でワクチン

2回接種済と2回未接種者の重症度の分析が為されていました。その結果、重傷者は2回接種済では一人も報告されず、2回未接種者は3人、中等症は2回接種済が5人、2回未接種者が20人と大差がありました。無症状～中等症では2回接種済が400人、2回未接種者が20人との結果でした。確実に言えることは、ワクチン接種は重症化を優れて防止したと言えます。

6ヶ月を経過すると発症予防・重症化予防のワクチン効果が低下する」とのイスラエルからの報告あり、3回目接種で、入院予防効果93%、重症化予防効果92%、関連死予防効果83%との研究結果にあります。3回目接種への会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

新型コロナの第5波では宿泊療養施設の運営に多くの会員に協力を頂き大変感謝しています。お陰で入所者の安心安全の確保が出来たとおもいます。又、第5波では病院や障碍者入所施設でのクラスターも発生しました。人知れずそのクラスターと向き合い、現場のスタッフの大きな頼りとなつた会員もいます。感謝に堪えません。

ところで、心無い、中止の大合唱のなかオリンピック、パラリンピックは開催されました。開催されてみると無観客にも拘わらず、選手は勇気をもつて真剣に「勝負」を戦い、その迫力は全世界の人々を“感動”に巻き込んだことは周知のとおりです。しかも、オリンピッ

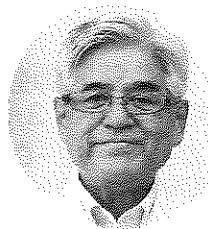
礼を申し上げます。

ク、パラリンピックを契機に新型コロナは急減し始めたのです。オリンピックを契機とする急減は医学的根拠がないわけではありませんが、正に“奇

奇しくも今年は「寅年」です。  
「寅年」の本来の意味は「春の  
草木が生じる」であります。「寅

年」の意に沿つて、オリンピック選手が示唆した「勇気」を少しでも持つて医師会の存在意義を昂めたいとおもいます。今年もご指導、ご鞭撻をよろしくお願ひ申しあげます。





新しい年を迎えて

大島郡医師会病院

院長眞田純

ありがとうございます。

威を振るい世界中を混乱に陥れました。危惧されたとおり長期にわたる拡大、減少の繰り返しとなり、わが国もついに第5波まで経験することとなりました。令和3年12月中旬の時点での感染者数は、世界で約2億7千万人（死亡者約530万人）、国内で約173万人（約1万8千人）、県内で約9100人（66人）とされています。国内は11月末より消退傾向で少し安堵したところですが、さらに近日中の第6波到来も懸念されており、まだまだ気の抜けない状況には変わりありません。

運でありますたかと思ひます出場した選手の皆さんには気の毒でしたが、ほとんどが無観客試合・テレビ観戦となり、チケット確保がものにならなかつた身としては皆平等で良かった?それにしても地の利があるとは言え日本選手、たくさんの中メダル獲得はいいへん立派で喜ばしいことでした。

さてコロナ出現当初より行われている院内感染防止のための面会制限は、患者さんやご家族の心情を思うとたいへん心苦しさもあり、昨今の状況を踏まえ軽減措置の検討も行つてゐるところですが、高齢の患者さんが数多く入院されている当院としては、年末、年始の帰省に伴うリスクも考え、まだ簡単に踏み切れないところです。いましばらくご辛抱いただきたいと思います(なお、患者さんの病状等によつては、十分な感染対策の上、特別な配慮も行つています)。コロナに対する奄美にお

されでいますか 感染の蔓延状況によつては当院も(軽症者に限つてではあります)が、可能な限り受け入れる体制をとつています。

昨年は大島郡医師会病院にとつて一つの大きな節目とも言えるかと思いますが、地域の医療状況及び人口動態の変化等将来を見据えて病床機能の転換を行いました。約1年かけての検討を経て令和3年4月より、これまでの慢性期療養が主体の病棟体制から、回復期(とくに回復期リハビリテーション)に重点をおくとともに、一方では在宅医療へ向けての流れを考慮し、介護医療院を開設いたしました。これらの展開は、もちろん私どもの病院の将来像を考慮した上でのことですが、以前にも本誌上でも申し上げた通り、国の指導で行われている地域における急速な人口減、高齢化に対応するための地域医療構想調整(各病院・施設の立ち位置に

中や骨折・外科手術後あるいは肺炎等の廃用症候群などを対象に、より強力なりハビリを行います（運用のためにリハビリ技師を増員し（現在35名）、病状を180分／日のリハビリを行い、早期の在宅復帰を目指しています。成果も徐々に出てきており、最近は鹿児島や関西等、島外からの患者さんも増えつつあります。また、入院治療後も喀痰吸引や経管栄養等が必要で在宅や他の介護保険施設で支えることが困難な方などを対象とした介護医療院は、慢性期・療養病床の受け皿としての位置付けもあり、ニーズが大きく（現在、多数の入院待ちの状況）増床等、今後の対応を検討中です。

医師会病院は奄美市を中心部より距離があり、お住まいによつては来院するのにご面倒、ご苦労をお掛けしていますが、鹿児島県の公的病院の一つとし

昨年でしたか奄美に  
とつて明るいニュース  
もありました。時間が  
掛かりましたが、念願  
の世界遺産の達成、そ  
して県立大島高校野球  
部が、春の甲子園への  
切符を、自力で初めて  
ほぼ確実にしました。  
今年、奄美が明るく發  
展する弾みになること  
を願いたいと思います。  
す。

A decorative horizontal border at the bottom of the page featuring a repeating pattern of small, light-colored circles arranged in a grid-like, wave-like design.

応じた役割分担、すみ分けをすることにより、効率的な医療・介護連携を構築する)を考慮したもので、当院としては、以前より力を入れてきたりハビリ治療を充実させることで、奄美に不足しき回復期リハビリ

て、皆さんに期待し喜んでいただけるよう、より高い地域医療への貢献を目指して充実を図つて参りますので、病院運営に対するご理解と協力をどうぞよろ

A decorative horizontal border at the bottom of the page featuring a repeating pattern of small, light-colored circles arranged in a grid-like fashion.



## 新春雑感

介護老人保健施設「虹の丘」

施設長 喜入 厚

新年あけましてお目で  
とうございます。

年を重ねるにつれ時の  
速さを実感したこの1年  
でした。異常気象に伴う  
大雨による7月に発生し  
た熱海での土砂災害で、  
瞬時のうちに26人の尊い  
命が失われ、尚行方不明  
の方が1人という大惨事  
が昨日のことのように思  
い起こされる。

一方ここ奄美では例年  
のような台風の直撃は免  
れ、農産物や生活への影  
響も少なかつたように思  
われる。明るいニュース  
としては、世界的な新型コ  
ロナウイルス感染のパン  
デミックで1年間延期さ  
れた2020東京オリン  
ピックの開催でたくさん  
の金メダルを獲得した日  
本人選手の活躍であつた  
が、コロナ禍にてほとん  
どの種目が無観客開催と  
いう寂しい大会となつ

一方昨年の流行語大賞「リア  
ル二刀流・ショウターム」で  
大きな感動を呼び起こし、メ  
ジャーリーグで大活躍した大谷  
の存在は多くの日本人に感銘と  
勇気を与えた。しかし総じて暗  
い1年であったことは否めず、  
何といつても1年に続き1年  
間を通してコロナに始まりコロ  
ナに終わつたが、その間当施設  
でも感染の施設内侵入を阻止す  
るためにご家族との面会を禁止  
し、オンラインで顔を見たり話  
していただき等、大変不自由な  
思いを利用者、ご家族双方に与  
え、ご協力いただき危機を乗り  
越えられ胸を撫でおろした次第

幸いインフルエンザの流行が  
明らかでなく、今のところはそ  
の予防接種を入所者はすでに接  
種済みである。しかし職員には  
なかなかワクチン需給のバランス  
が悪く遅れながらも接種を励  
行しているところである。さら  
に、国の呼びかけに呼応して3  
回目の新型コロナワクチンも確  
実に受けるよう職員に促してい  
るところである。

さて我々老健施設も昨年4月  
の介護報酬の改定に伴い制度が  
大きく変わつてきている。すで  
に2年続いているコロナ感染、  
毎年のように起つてきている大  
雨、土石流、台風などの自然災  
害や可能性は少ないがテロ等の  
事件、大事故、ライフライン、  
サプライチェーン(供給網)の途

/8) 現在日本で4名の外国人か  
らの入国者の検疫で確認されて  
おり、その感染力やワクチン効  
果が不明とのこともあり動向が  
注目されるところである。また  
これから冬場に入り、気温・湿  
度が低下、換気の低下に伴い再  
度感染が広がる可能性があり、  
高齢者施設の責任者として今後  
も社会情勢を見ながら専一層コ  
ロナ対策を継続して行く所存で  
ある。

B C Pに関連して有名な話と  
して、2001年9月11日のア  
メリカ同時多発テロの時の大手  
証券会社メリルリンチの対応が  
端緒だつたという説がある。こ  
の会社はたまたま事件前の5月  
に全社大規模模擬訓練を実施し  
たばかりで、本社機能停止に備  
えた対策を行つていた。航空機  
が巨大ビルに衝突という未曾有  
の事件7分後には対策本部を立  
ち上げ、20分後には9000名  
の従業員全員の避難を完了させ  
ることが出来、B C P策定が功  
を奏した。

このような不測の事態が発生  
しても、重要な事業を中断させ  
ない、または中断しても可能な  
限り短い期間で復旧させるため  
の方針、体制、手順等を示した  
計画を立てなければならず、す  
べての入所・通所の介護事業者  
を対象に業務継続に向けた研修  
の実施、訓練(シミュレーション)  
の途

絶、突発的経営環境の変化等さ  
まざまな要因で事業の継続に支  
障をきたす場面が想定され、B  
C P(事業継続計画、Business  
Continuity Plan)を真剣  
に考える時期に来ており、その  
策定がましては老健施設の義務  
となつたのである。

B C P策定は急務である。  
従つて介護サービスを中止さ  
せないためには防災では必要な  
資源(職員・建物・設備、そして  
ライフラインとしての電気・ガ  
ス・水道)がある。守り方とし  
ては地震では建物の耐震診断、  
耐震補強工事、居室の家具・事  
務室のキャビネットなどの転倒  
防止、初期消火の訓練等を事前  
に進める必要がある。水害につ  
いては施設の浸水可能性の有無  
を知り、側溝・排水溝の点検、  
止水板や土のうの準備、ガラス  
窓の補強等を行う。感染に関し  
ては平常時から感染マニュアル  
の徹底で3密を回避し、マスク  
の着用と手洗い・手指消毒と適  
切な換気を継続する必要があ  
る。これらはすべて介護サービ  
スの利用者とそこで働く職員の  
ためである。

(4面へづく)

大島郡医師会より

さて国が示した今回の改定の最大のポイントは科学的介護の推進である。科的介護情報システムいわゆるLIFE(long-term care information systemFor Evidence)への対応である。このLIFEは前回改定で、通常リハビリ等でリハビリのデータを厚労省に提出するシステム、いわゆるVISITが創設され、また令和2年度に介護保険施設等の入所者のADL等のデータを収集したモデル事業、いわゆるCHASEの検討が行われ、最終的に両者が統一されてつけられた名称であり、老健施設関連の多くの加算要件等にも紐づけされている。

またLIFEに対応するためにはインター ネットなどへのアクセス等ICT化への導入が不可欠となつており、国の補助のもとに端末機器や介護ソフトの導入を我々の施設でも進め、

クを受け、それを分析した上でケアの質の向上につなげる。そしてきちんとP D C Aを回しながら手間のかかるシステムの導入が前提であり、慣れるまでかなり時間がかかりそうである。

またこの他今回の改定では老健施設における在宅支援機能や医療機能を評価する見直しが行われ、さらに老健施設からの訪問リハビリが施設類型の算定要件として重視され、また多職種連携を加算の要件に入れられますます地域包括ケアシステムの推進が図られている。さらに外部研修を受けた担当者を配置した安全対策部門を設置することによる安全対策体制加算が新設され、リスクマネジメントの強化が図られ、2008年から全老健が育成してきたりスクマネージャーがようやく制度上も認められ、我々の施設でもすでに4名が資格取得しており、彼らの活躍を期待している。

スクマネジメント体制の整備は施設単独で完結できず地域連携強化を含めたネットワークづくりが必要で一つは新型コロナウ

ケーズでは単独での解決は困難で、他者の協力が必須で、もう一つは地域の高齢者を含めた地域住民を守ることも老健に求められる役割であり、地域の中核を目指す存在意義もある。有事の際にさまざまな協力を得るためにも、また地域住民を守るためにも平時から準備をしておくことが非常に大事になる。

また最近はショートステイのニーズが非常に増え、昨年の介護報酬改定でショートステイに新たに「総合医学管理加算」が創設され、老健施設における入所サービス、通所リハビリ、訪問リハビリと並び在宅療養支援機能の一つであり、さらにその機能強化が進んでいる。施設類型で超強化型を維持する虹の丘も地域の要望としてのショートステイの中に最近は加算がついた医療ニーズにどのように対応していくか、医師会病院の介護医療院も空き待ちという状況を加味しても医療ショートの受け入れは困難と思われる。

また全国的にも医療ショートの利用はごくわずかで、5年前の全老健の全国調査ではショートステイの利用目的の64%がレ

スパートケアで、治療・医療的措置はわずか0・5%となつてゐる。しかし厚労省の今回の計算目的は発熱、脱水、転倒による怪我、軽い気管支炎等を想定し、かつ医療費の抑制につながり、特に高齢者の場合、一度入院してしまうと、短期間でも一気にADLが落ちてしまふリスクが回避されといふ。しかし夜間の看護師が足りない現状からもこの制度は俄かには受け入れは困難である。

一方医療面で昨年4月より所定疾患施設療養費の算定が従来の疾患に加えて、蜂窩織炎、帶状疱疹の内服も含められ、しかも算定日数が7日から10日に延長され、診断には医学的検査が不可欠とされたが、我々の施設で大きな収入実績につながつてゐる。このように厚労省の昨年の介護報酬改定から見えてくるのは、さらに生産年齢人口が減少する一方、介護ニーズが増大していく中で、介護人材の確保は喫緊の課題となり介護職員の負担軽減を図りつつ、効率的に質の高いサービス提供が出来るよう、ロボット・ＩＣＴの導入を財政面の支援を行い推進している。このようにいずれの改

定も地域包括ケアシステムに資する加算といわれ、そのシステムのコアは医療・介護・福祉の連携と協同であり、それが十分に整備される目標年が2025年といわれる。その中で、認知症ケア、多職種連携、看取りにかかる加算が付いたことはすべて地域包括ケア推進のための重要な要素となり、我々老健は尚一層、在宅復帰・在宅療養支援に向かつて機能する中核施設にならなければならぬ。

さて、虹の丘も創設から早いもので27年目に入りましたが、今まで培ってきた施設内のそれぞの職種の更なるスキルアップを図り、これまで同様、地域・利用者に愛される質の高いサービスを提供する施設を目指します。

本年も昨年同様、大島郡医師会の先生方にはご指導、ご鞭撻を宜しくお願いします。



## 年頭のごあいさつ

社会福祉法人 蒼寿会 なぎさ園

施設長 山田 和憲

みなさまあけましておめでとうございます。

年頭に当たりご挨拶を申し上げます。令和3年も、新型コロナウイルスに明け、新型コロナウイルスで暮れた1年でしたが、ワクチン効果と日本人の生真面目さと清潔さが功を奏しました。秋口から徐々に減り始め緊急事態宣言も解除され、日常を取り戻しつつあります。世界的に見れば極めてまれな事象ではあります。オミクロン株も新たに発生し、いつまた爆発的な感染が襲ってくるかもしれません。まだまだ気抜けない状況です。ぜひ今年こそは普段の日常生活が戻ることを期待していま

ロナ禍で自肅生活を強いられた私たちにテレビを通して感動を与えてもらいました。

また、奄美でも複数のクラスターが発生し、鹿児島市よりも陽性者の出現数が上回る日もあり、昨年に引き続き、奄美まつりや市民体育大会、地域行事が中止。なぎさ園の行事にまで影響し、夏祭りの中止、運動会の縮小、ボランティア慰問等の受け入れ中断、面会の禁止等あります。エヌエスコもこれらの世界で暮れた1年でした。登録取り消しという事例もあり得ます。ユネスコもこれらは、次世代へ残すべき価値があるものとして認定している

とあらゆるところで影響があり、暗い1年でした(去年と同じで書くこともなくなつてきました)。が、その矢先、大島高校の野球部が県大会優勝、秋季九州大会でも準優勝を飾り、春の選抜高校野球大会出場をほぼ確実なものになりました。8年前の21世紀に島が沈み国土がなくなると一昔大に騒がれた国、ツバルの首脳がかつて陸地であつた海に舞台を置き、その実情を訴えていました。久々にツバルのニュースを見ましたが、ひと頃はみんな騒いでいたのにと不思議な思いでした。

一番高いところでも標高5メートルにも満たない南洋のサンゴ礁の島国が沈む。国民党がオーナーの松山英樹選手がマスター優勝、オリエンピックでの日本人選手の活躍、大谷翔平選手の大リーグ・アメリカンリーグ MVPとコ

年で増えているとのことです。サンゴ礁や有孔虫の堆積でできた不安定な地盤で、憂慮するところを切り取って、その一部を大きく報道するのはいかがなものかと首をかしげます。仮にそれほど大きな出来事なら、登録かわからなくなります。登録取り消しという事例もあり得ます。ユネスコもこれらは、次世代へ残すべき価値があるものとして認定している

もう一つの事例をあげますとこれも10数年以上前の話ですが、オゾンホールが拡大し、紫外線が地球温暖化による海面膨張によって影響があり、島が沈み国土がなくなると一昔大に騒がれた国、ツバルの首脳がかつて陸地であつた海に舞台を置き、その実情を訴えていました。久々にツバルのニュースを見ましたが、ひと頃はみんな騒いでいたのにと不思議な思いでした。

が、あの騒ぎはいつたい何だつたんだろうとつくづく思うこの頃です。

愚痴っぽくいろいろ書きましたが、な

にはさておき、私の今年の一番の関心事

は、やはり大島高校の春の選抜甲子園大会です。ぜひ一勝を

かつたかと思われます。ゴルフの松山英樹選手がマスター優勝、オリエンピックでの日本人選手の活躍、大谷翔平選手の大リーグ・アメ

リカンリーグ MVPとコ

年で大型外洋ヨットを操舵できるわけもなく、そのクルーが路は飛行機だつたそ

うです。その行動はあまりニュースには

ならず。

いつばい。世界自然遺産登録は、希少な主な理由ですが、観光開発等でそれらの生態系がぐずれたり

したら、何のための開発等でそれらの生態系がぐずれたり

主な理由ですが、観

光開発等でそれらの生态系がぐずれたり

したが、希少な生态系がぐずれたり



# 第2回理事会

で上手くできたのではないかと思いません。厚くお礼申し上げます。

特にワクチンにおいては、県下はもとより全国でもトップクラスの接種率だと思います。それと廃棄については、龍郷町でのトラブルがありましたけれども、それを除いて日々の『ケアレスミス』そういうミスは殆どなく優秀な成績を収められたと思います。それも皆さんの協力のお陰だと非常に感謝しております。

今は第6波ということで決して油断はできない状況だと思われます。世界的に見ますと例えば日本でコロナが急減しておりますけれども、インドでも日本以上に急減しています。ワクチンとか人の流れを止めるとかそういう形ではなかなか説明できません。ワクチンとか人の流れを止めると件があるのではないか。イギリスでは減少した後再び罹患者が増加している。そういう風に増加する条件、急減する条件が、我々がうかがい知れない何かしらがあるのではないか。これはワクチンでもなかなか説明が難しいことだと思います。

そういうことがあるとは言え、第6波が来るものだと思つて発熱外来など引き続き協力していくことが大事ではないかと思います。

す。」

その後、会長を議長として議案審議に入る。

協議事項

(1)・第1号議案 最低賃金引き上げに伴う俸給表の見直しに関する件

報告事項

(1) 各業務担当理事からの報告について・令和3年4月から10月理事会開催までの事業報告(津畠庶務担当理事)・新規開業診療所の個別指導立ち合い報告(碩医療保険担当理事)

・軽症者宿泊療養施設及び感染者状況報告(野崎急救医療担当理事)・新型コロナワクチン接種(3回目)等状況報告(岩城予防接種担当理事)・沖永良部島のワクチン接種等含む状況報告(町田理事)

(2) 医師会病院電子カルテの更新の状況報告について・これまでの検討状況及び今後の予定報告(坂元大島郡医師会病院事務長)

協議事項1号議案の結果については、見直し案を全員一致で承認されました。が、来年度以降も最低賃金が上がる可能性もあることから、評価制度を導入することが必要ではないかなどの意見がありました。

その後、会長を議長として議案審議に入る。

協議事項

- 件 (1)・第1号議案 最低賃金引き上げに伴う俸給表の見直しに関する

医師会内部でもいろいろな問題があります。今日は議題には挙がって

はおりませんが、医師会病院の問題もあります。皆さんのお知恵を拝借しながら今後のコロナ対策、または医師会病院の改革を進めていけたらと思います。よろしくお願ひしま

法人大島郡医師会

謹 賀 新 年



医師会病院院長 眞田 純一  
虹の丘施設長 喜入  
なぎさ園施設長 山田  
医師会事務局長 城辰郎  
名城辰郎

監事　岡村　大野　岩野　町城　徳田　碩田　嘉川　津畠　野煙　野崎　桂口　桂口　益崎　桂田　朝田　沼田　宮上　上寬

(1) 各業務担当理事からの報告について・令和3年4月から10月理事会開催までの事業報告(津畠庶務担当理事)・新規開業診療所の個別指導立ち合い報告(碩医療保険担当理事)

・軽症者宿泊療養施設及び感染者状況報告(野崎救急医療担当理事・新型コロナワクチン接種(3回目)等状況報告(岩城予防接種担当理事)・沖永良部島のワクチン接種等含む状況報告(町田理事))

(2) 医師会病院電子カルテの更新の状況報告について・これまでの

新の状況報告について・これまでの検討状況及び今後の予定報告(坂元大島郡医師会病院事務長)



## 奄美群島における心肺蘇生を望まない傷病者への対応

県立大島病院 救命救急センター長 高間 辰雄

団塊の世代がすべて後期高齢者となる2025年には、わが国は、年間160万人が亡くなる超高齢化少子多死社会へと突入します。そのような状況の中、「いかに自分らしく生き、そして生を終えるのか」という議論が活発化しております。人生の最終段階において、自分が心肺停止になつたときに「心肺蘇生の実施を望まない」「自宅で看取つてもらいたい」という意思表示をされる方が増えています。

奄美群島の皆さんにおいては、こういった想いがより強くあるかもしれません。昔は自宅での死がより身近にあったかと思います。しかしながら、医療が高度化するにつれ、病院での死亡が主となり、鹿児島県では74%の方が病院で亡くなっています。昔よりも死が身近にない現代社会では、中々本人が思う様な在宅での最期を迎えることはできません。特に傷病者が「自宅でのお看取り」という意思を固めていても、慌てたご家族等から救急要請があつた場合、救急隊は救命を第一に考え、心肺蘇生を実施しながら医療機関に搬送せざるを得ず、傷病者の意思に沿うことができず、非常に苦しむものであ

る以前より、広島市消防局や埼玉西部消防局では、「本人の心肺蘇生を望まない意思」が確認できた場合は、「蘇生行為を中止する」といった取り組みを行つてきましたが、2019年12月16日より日本最大の消防組織である東京消防庁も、

(1) 以前から本人が心肺蘇生を望まないという意思表示をして、それを医師などと共に有している(アドバンス・ケア・プランニング)「人生会議」を行つている。

(2) 電話連絡により、救急

院の下で生を終えたくない、住み慣れた自宅や老人ホーム、先祖代々の土地でおだやかに最期を迎えたいという感覚は誰しも一度は抱くものであ

れない病院無機質な天井の下で生を終えたくない、住み慣れた自宅や老人ホーム、先祖代々の土地でおだやかに最期を迎えたいという感覚は誰しも一度は抱くものであ

ります。またまだ解決すべき問題は山積しておりますが、「顔と顔の見えるコミュニティがある」「在宅医と救急医の距離が近い」という奄美群島の大きな利点は存分に活かせている、と感じております。作業部会長として大きな手応えを感じております。

今後も、奄美群島の皆様がより良い生活を送れる様、濃厚な議論を重ねていきたいと思います。医師会の会員の皆様におかれましては、今後とも当作業部会へのご支援ご厚情を賜りますよう、お願い申しあげます。

た。東京消防庁の2018年の報告では、全国の消防本部の85%がこの様な苦い経験をしていたことが明らかとなっています。この様なことが、超多死社会の中で増加す

りました。

ここ奄美群島でも、2021年5月より大島地区MC協議会の下に作業部会を設置し、東京消防庁のプロトコルを参考に、「奄美群島における心肺蘇生を望まない傷病者への対応」のプロトコルを作成が始まりました。現在ま

で、5回のWeb会議を開催し、多くの医療関係者、消防関係者、介護施設の方々にご参加頂き活発な議論を重ねております。まだまだ解決すべ

き

申



## 介護医療院開設にあたつて

**大島郡医師会病院  
介護医療院 看護師長 伊集院 珠美**

介護医療院は「医療の必要な要介護者の長期療養・生活施設」として、

2018年4月に創設され、当大島郡医師会病院は2021年4月に旧4階東療養病棟を「大島郡医師会病院介護医療院」として開設しました。現在

満床の18人の方が入所しております。

介護医療院は慢性期の医療・介護ニーズを併せ持つ高齢者の増加に対応するため、また医療処置などが必要で自宅や特別養護老人ホーム等での生活が困難な高齢者にも対応できる受け皿となることが期待されています。

当介護医療院

には、胃瘻や鼻腔から経管栄養を受けている方、気管切開を行っている方、日常的に痰吸引を必要としている方、認知症のある方等、医療ニーズと介護を必要としている方が入所されています。

お部屋は「住まい」としての生活機能を重視させ、1床当たりの面積を確保しており2人部屋はパーテーションで仕切られ準個室となつております。その他2床は和室や台所、ユニット型の風呂やトイレがある完全個室となつております。開設当初は、

16床あります。その他の16床やトイレがある完全個室となつております。開設当初は、ベットや付属のタンスしかなく、閑散としていたお部屋も、現在はご家族から自宅での馴染みの物、や家族写真等が届きます。

介護医療院の

機能として上記に示した日常的な医学管理のほかに、看取りやターミナルケアの機能と生活施設としての機能を兼ね備えた施設としての役割が大きくなります。入所されている方々の生活様式に配慮し、長期に療養生活を送るのにふさわしい、プライバシーを尊重した環境作りも重要なとなります。

主治医の先生を始め、療法士や管理栄養士、薬剤師、歯科衛生士等多職種がそれぞれの専門的な知識を持つて、一人

ひとりに関わり、また定期的なカンファレンスを行う中で情報共有し、時には日常のケアへの指導をお互いに受けながら、より良いケアの提供ができるよう取り組んでいます。

また大きな役割の一つとして「地域に貢献し地域に開かれた交流施設」が掲げられており、開設当初は新型コロナ

奄美では初めての介護医療院の開設といふこともあり、

まだまだ試行錯誤しながらの毎日ではあります

ごすことができるよう、スタッ

フ一同取り組んでまいります。

屋へと少しづつ変化しつつあります。介護医療院の理念である、「利



## 「第44回 地域包括ケア交流会」が開催されました!

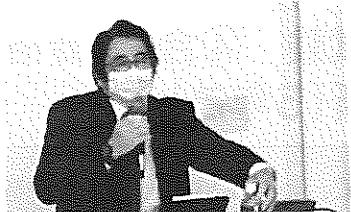
テーマ:「リハビリテーションとACP(アドバンス・ケア・プランニング)」

定期的に開催(原則:偶数月の第4月曜日)している地域包括ケア交流会が10月25日(月)に大島郡医師会館4階ホールにて行われました(名瀬保健所管内市町村委託事業「在宅医療・介護連携推進事業」の一環として開催)。

昨年の下半期からの交流会では、在宅医療の4つの場面(「日常の療養支援」「入退院支援」「急変時の対応」「看取り」)におけるACP(アドバンス・ケア・プランニング)をテーマに、在宅での看取りの事例や救命救急センターや大島地区消防組合からの現状報告、言語聴覚士の「食べること」について、そしてケアマネジャーの立場からのACPと、多方面の方々に講師になっていただき、その後の意見交換で多職種の相互理解を深めてきたところです。

はじめに、今回のテーマ「リハビリテーションとACP(アドバンス・ケア・プランニング)」についてリハビリテーション科専門医の稻先生が講話をされました。リハビリテーションの歴史やその言葉の意味、「メント・モリ」という警句の紹介など、興味深いお話を織り交ぜながら「ACP」は単に事前指示書を作ることではなく繰り返し話し合いが行われることが重要で、それは患者さんが安心できる支援のプロセスでありケアであること、またリハビリテーションを含め常にその人の居場所が適切であるか考慮しているか、などの支援者側の基本的姿勢(下記スライド参照)も含め、「ACP」が患者さん利用者さんを真ん中においた支援であるという基本的かつ重要な視点について、わかりやすく示唆していただきました。

稲  
源一郎  
先生  
大島郡医師会  
副会長



発表スライドより

- ・分け隔てなく 尊厳を持って接しているか
- ・利用者の不利益になっていないか
- ・常に適切な計画を考慮しているか  
(医療、リハビリテーション、ケアなど)
- ・常にその方の居場所が適切であるか考慮しているか



～植木鉢図を使用した  
グループワーク(意見交換)～

その後の意見交換では医師、看護師、保健師、ケアマネジャー、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、行政の保健福祉課長さんなどなど、職種も勤務先も異なる方々がそれぞれに感じたことや、自分の役割について自由に語り合いました。事前の申込みは不要ですので、興味のある方は気軽にご参加ください。

【お問い合わせ先】大島郡医師会在宅医療連携支援センター ☎0997-55-6381

### 口腔ケア研修会

令和3年12月1日

虹の丘だより

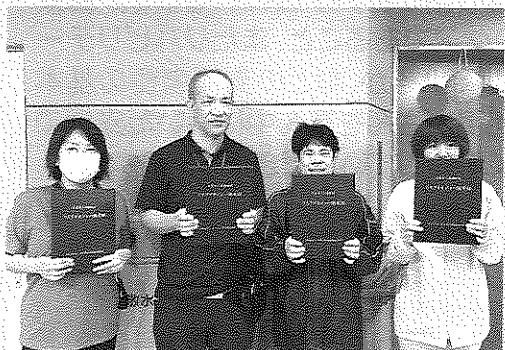


虹の丘口腔栄養管理委員会主催の研修会が行われました。今回は医師会病院から水間先生をお招きし、施設における口腔ケアについて講演頂きました。口腔ケアの目的から口腔内細菌と全身疾患の関係性、実践場面でのコツや課題について先生の経験を交え有意義な時間となりました。口腔衛生管理に関しては今年度の改正により歯科医師又は歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が、介護職員に対する口腔衛生に係る技術的助言及び指導を実施していくことが要件となり、更なる協力が必要な関係となりました。虹の丘においても口腔ケアの専門家である歯科医師、歯科衛生士の指導を仰ぎながら、入所者の口腔衛生管理に努めて行きたいと思います。

## 令和3年9月、4人の虹の丘職員が 「リスクマネジャー認定試験」に合格しました!

リスクとは「危険」、「危険度」、「予想したとおりにうまくいかない可能性」、「失敗したり損をしたりする危険」であり、一般的には『リスク』は「危険」を表す言葉と定義されます。発生し得るリスクを予想し、それに備え不安を和らげる必要があり、これらのリスクに対処することをリスクマネジメント(リスク管理)といいます。リスクマネジメントとは、リスクを組織的に管理し、損失などの回避または低減を図るプロセスを指します。

今年度の改正により、介護老人保健施設におけるリスクマネジメントの強化が図られ、運営基準における、事故発生又は再発を防止するために講じなければならない措置として、指針の整備、事故報告の分析改善策の周知徹底、定期的な研修等の実施に加え、これらを適切に実施するための担当者の設置が義務化されました(6ヶ月間の経過措置)。



### ★リスクマネジャー資格取得の流れ

- ①上記の時間のカリキュラムを受講
- ②インターネット模擬試験(e-ラーニング)
- ③認定資格試験
- ④合格、資格取得
- ⑤資格の更新(5年ごと)

老健施設は多職種協働の施設です。それぞれの職種に、幅広い視野でリスクをとらえ、あらゆるリスクに対応できる担当者をそれぞれの部門に配置し、リスク意識啓発を図れば、老健施設におけるケアの質が更に向上することと考えます。

## なぎさ園だより

令和3年10月24日

### 運動会

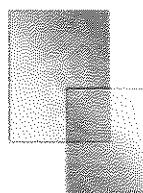


10月24日、運動会を開催しました。当園恒例の聖火リレーで幕を開け、競技が始まると普段からは想像できない程の集中力で真剣に取り組んでおりました。応援にも声が出ていて、マイク実況が聞こえない場面が多々ありました。笑いにあふれた楽しい運動会が行えました。



令和3年12月6日

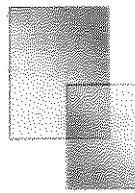
12月6日、老人クラブ名瀬支部よりタオル200枚の寄贈がありました。毎年寄贈していただいており、タオルの消費が多い当施設としてはとても助かっています。コロナ前はタオル寄贈の際に慰問をしていただいておりましたが、現在はそれもかなわず残念がっておられました。来年こそはタオルと共に笑顔もいただけることを祈っています。



# 奄美の薬草



薬草研究



奄美の自然を考える会顧問 田畠 満大

## <アキノワスレグサ（トキワカンゾウ）について>

ススキノキ科ワスレグサ属アキノワスレグサについて話してみます。9～10月頃によく見かける花です。以前はユリ科に属していましたが、研究が進み分類体系が変わってきました。

学名は、*Hemerocallis fulva* L. var. *pauciflora* です。奄美大島ではクヮンソウ、沖永良部ではクヮンソーソーと呼ぶようですが、各集落ではどのような呼び方をしているのでしょうか？沖縄ではニーブイグサ（眠り草）と呼ばれているそうです。さて、いつものように文献類から紹介していきましょう。

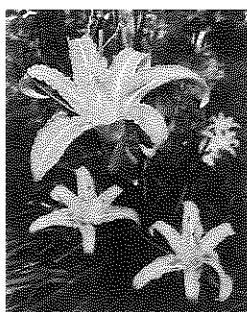
「沖縄の薬草百科」多和田真淳・太田文子共著より、【薬効】

①不眠症 ②興奮 ③いらいら ④補血剤 ⑤強壮薬 ⑥黄疸 ⑦乳傷 ⑧腫痛などに対して、準備する物は、アキノワスレグサの葉---5 g ネズミモチ（果実）---3 g クコ（果実）---3 g カワラヨモギ（乾燥）---3 g 泡騰させた水---1 ℥ を準備し、使用方法1日分として、① ② ③ は共通で1日分として、準備した物を1 ℥ の泡騰させた水に入れて水が半分になるまで煎じ、1日3回服用します。

使用法Ⅱ、④に準備する物として、アキノワスレグサ---3 g セロリ---3 g 泡騰させた水1 ℥ に入れて半分になるまで煎じ、1日3回服用します。使用法Ⅲ、⑤1日分として、泡騰した水が半分になるまで煎じ、1日3回服用します。使用法Ⅳ、⑥1日分として、アキノワスレグサの根を適量と母鶏を煮て食します。使用法V、⑦ ⑧共通で、アキノワスレグサの根を適量つき砕いて患部に湿布します。

最近の進んだ研究がないかネットで調べてみました。以前から琉球大学の上江州榮子先生がアキノワスレグサの研究をしておられた事は知っていましたが、手元に研究論文がなかったので、ネットで拝見することができました。以下、著者情報抄録から引用させてもらいます。沖縄において古くからクヮンソウは、不眠症の効果があると伝承されている。文献を遡ってみると、沖縄の古い食療書・御膳本草（渡嘉敷親雲上通寛1832）に、「くわんさう」は「わか葉及び花は食用に供せられる。苗花は・・黄疸を除け、久しく食べば身を軽くして目明らかなるなり」とある。この著書にはまだ「不眠症」という表現は出てこない。浦添為宗によって編集・発行された「家庭医書御膳本草綱要 1931」には不眠症を治すと記載されている。さらに1951年以降に発行された沖縄の薬草関係の図書には、不眠症を治す効用を示す植物として、ノカソゾー、ヤブカソゾー、ベニカソゾー、ホンカソゾーなどと表現されている。従ってこの段階では、「くわんさう」が現代のアキノワスレグサを示しているのか明確ではない。不眠症には「アキノワスレグサの葉を、ネズミモチ、クコ、カワラヨモギとともに煎じて服用する（多和田真淳・太田文子 1985）」などと記載されている。

この多和田・太田の著書になって、アキノワスレグサとの表現が認められる。この文献に基づいて、アキノワスレグサと判断される植物について、マウスを用いた動物実験におい



て睡眠に対する影響について検討し、伝承を確認する結果を得た（Psychiatry Clin Neurosci. 1998）。その後、共同研究者たちと共に、さらにこの結果を確認することができた。最近の成分分析によって、アキノワスレグサは抗酸化活性を示すポリフェノール類やカロテノイド類を高濃度に含有する結果を得た。従って、御膳本草に収載されている“くわんさう”は肝機能を改善し黄疸を除き、かつ睡眠改善作用のあるアキノワスレグサであると推定されるということです。強度研究については、琉球大学学術リポジトリに、アキノワスレグサのカロテノイド顔料と葉または花の添加による“ひらやーちー”と“ちんすこう”的抗酸化能の変化について報告されています。

次に、「沖縄伝統野菜クヮンソウの睡眠改善・抗うつ様効果の証明とその可能性」吉原浩一（ソムノクエスト株式会社）の論文がネット上で見ることができます。全体の内容を要約することは控えます。詳しく調べたい方は是非見てください。終わりの言葉を引用します。「人間は「疲労やストレスが溜まること」と、「生体リズム（夜になる時）」の二つの要因で眠くなる。また、人間は体内で先の要因に起因する睡眠物質や覚醒物質の増減により、「眠気」と「覚醒」が脳内の睡眠中枢や覚醒中枢に影響を与え、シーソーのような相関関係を示している。

例えば「眠気」の増大をブロックする物質にカフェインがあり、「覚醒」をブロックするものが抗ヒスタミン系の風邪薬などに含まれる塩酸ジフェンヒドラミンがある。これらの物質以外で睡眠の満足度に最も負の影響を与えていていると言われているものが「ストレス」である。そこで、ストレス度を減少させるだけで、特に短眠化し高度ストレス社会に生きると言われる現代人においては、本来、体が欲している「眠気」をそのまま引き出せるために、寝不足と自覚していないヒトでも、寝不足を自覚しているヒトでも体感性が極めて高いと考えられる。興味深いのは、ヒプノカリスは鎮静物質による睡眠導入や活動鎮静ではないため、寝不足でないヒトでは体感が少なく感じることである。

このストレス軽減作用とそれを活用した睡眠改善方法は、鎮静物質を用いて活動を抑制する擬入眠作用によるものではなく、極めて自然であり安全である。擬入眠作用については、世の中にある多くのそのような物質の研究が、夜行性のマウスの活動期の鎮静試験しか行っていないことが危惧される。つまり、肝心の休息期（マウスは日中）の鎮静効果や脳波測定を行っておらず、その実験の観測時間が夜間19時～7時（マウスの活動期）であるため、特に一般の方においては、人間の夜での効果とイコールと解釈しがちであり、大きな誤解を与えていることは危惧されなければならない。さらに、「鎮静効果＝睡眠改善効果」ではなく、「鎮静と睡眠を明確に区別しなければ、安全性試験抜きに鎮静効果が確認されたので睡眠効果・睡眠改善効果・入眠効果があると公言する事は容易であり、今後そのことにより健康被害をもたらすことになります、私たちは誠意ある研究を行っていかなければならぬと強く感じるものである」と述べています。確かな情報のうちに紹介しなければならないと痛切に感じました。今後、アキノワスレグサについても科学的研究が進み、正しい根拠のある情報を待ち活用していきたいと思います。

## 学术講演会・研修会

◆1月14日(金)19:00～20:00 ※オンライン開催  
【DUAL Seminar in 奄美】(大日本住友製薬との共催)  
座長：むかいクリニック院長 向井 奉文  
特別講演「新しい糖尿病薬イメグリミンに期待すること～糖尿病臨床とミトコンドリア～」  
演者：いづろ今村病院名譽院長兼慈愛会糖尿病センター長 鎌田 哲郎

◆1月18日(火)18:30～20:30 大島郡医師会館4Fホールほか  
【第2回医師の働き方改革に関するセミナー】(会場受講または自施設でのZoom受講)

◆1月19日(水)19:00～21:00 大島郡医師会館4Fホールほか  
【鹿児島県医師会在宅医療・介護連携推進講演会】(会場聴講または自施設でのZoom聴講)  
1.事例報告「在宅医療推進役として、地域医師会が果たす役目  
～ACPに関する高齢者いきいきサロンにおける住民啓発～」  
講師：肝属郡医師会立病院地域連携室 坂上 陽一  
2.特別講演「ACP困難要因克服へのStrategies～自己決定支援の構造～」  
講師：鹿児島大学大学院医歯学総合研究科腫瘍学講座消化器・乳腺甲状腺外科 的場 康徳

◆1月26日(水)19:00～20:30  
【令和3年度障害支援区分認定主治研修会】(自施設・個人でのZoom聴講のみ)

◆1月28日(金)19:00～20:00 ※オンライン開催  
【大島郡医師会学術講演会】(パイエル製薬との共催)  
座長：県立大島病院循環器内科部長 今村 春一  
特別講演「脚を見て診る～エコーを活かしたVTE診療の実際～」  
演者：九州中央病院循環器内科部長／九州大学医学部臨床教授 小田代 敬太

◆2月7日(月)19:00～20:00 ※オンライン開催  
【循環器疾患Webセミナー in 奄美(仮)】(第一三共との共催)  
総合座長：大島郡医師会病院院长 真田 純一  
一般講演「奄美医療圏における急性冠症候群診療の現状について(仮)」  
演者：県立大島病院循環器内科医長 宮内 栄治  
特別講演「冠動脈疾患に対する抗血栓療法のニューノーマル～2020 JCS GL を読み解く～(仮)」  
演者：福岡山王病院院长・循環器センター長／国際医療福祉大学教授 横井 宏佳

◆2月9日(水)18:50～20:00 ※オンライン開催  
【大島郡医師会学術講演会】(興和との共催)  
座長：むかいクリニック院長 向井 奉文  
特別講演「循環器疾患関連テーマ(仮)」演者：県立大島病院循環器内科医長 宮内 栄治  
◆2月16日(水)18:30～20:00 大島郡医師会館4Fホールほか  
【令和3年度医療安全対策研修会】(会場受講または自施設でのZoom受講)

◆3月3日(木)19:00～20:10 ※オンライン開催  
【脳卒中連携Webセミナー in 奄美(仮)】(第一三共との共催)  
オープニングセレモニー：大島郡医師会病院脳神経外科 西 勝幸  
座長：県立大島病院脳神経外科部長 粟 隆志  
特別講演「脳塞栓症における血管内血栓回収療法と抗凝固療法(仮)」  
演者：鹿児島市立病院脳神経外科科長 西牟田 洋介

病気について考えてみたい。病気は、心の持ち方によつて軽くなつたり、重くなつたりすると言われます。それを表現したのが「病は氣から」という言葉です。「風邪は万病のもと」と、言わてい

# 病気と人間の心

元名瀨市立奄美博物館長  
林蘇喜男

# 奄美の医療雑話

54

るよう。〔風邪〕はあらゆる病氣・多くの病氣の原因だと言われております。風邪にかかつたら早く治療するのがいい、と江戸時代に万病に効果があるという「万病円」の丸薬があつたそうです。現

代も、風邪は万病のもとであります。いろんな「風邪薬」があることからすぐに治せるということもあります。ですから、少々の無理をしてでも、と考える人が多い。友人の子息の結婚式への出席、あるいは親しい人の死の知らせに際して、軽い風邪の病状を押して列席せざるを得ない場合等もあります。いろいろな事柄を強引に押し進めることから、「病を押して物事を行う」、あるいは「無理押しをする」とも言います。

編集後記

るよう、昨年も一昨年に継ぎ新型コロナに振り回された一年でした◆一年遅れで開催された東京オリンピック・パラリンピックが閉幕した後、国民へのワクチン接種普及や、徹底した人流制限の効果もあり、国内での感染者が減少し、10月になると少しずつ元の生活に戻りつつあるかと思えば、今度は新型変異株（オミクロン株）により、再び世界を脅し始めております◆そんな不穏な一年の中で奄美では嬉しい出来事もありました。世界自然遺産登録もありましたが、私にとっては大島高校野球部が、甲子園選抜大会出場を自力で掴んだことです。離島というハン

明けまして  
おめでとう  
ございます。  
ございます。

年は寅年、壬の寅年で厳しい冬を越えて、芽吹き始め新しい成長の礎となるイメージだそうです。3回目のブースター接種も医療従事者から始まり、高齢者と順次進んでいくと思います。治療薬の開発も進み厳しいコロナ社会を乗り越え新しい成長した世の中に少しずつでも進んでほしいものです。

明けまして  
おめでとう  
ございます。  
編集後記



るよう、昨年も一昨年に続き新型コロナに振り回された一年でした◆一年遅れで開催された東京オリンピック・パラリンピックが閉幕した後、国民へのワクチン接種普及や、徹底した人流制限の効果もあり、国々で感染者が減り、  
手で県大会のみならず九州大会でも強豪校と互角に戦っている姿には多くの人が感動と勇気をもらつたことでしょう。選手一人の能力を大舞台の場で発揮できるにはどうすれば良いのかマネジメントする監督さんの采配もあるでしょうが、技術・体力向上の努力は勿論、「島から自力で甲子園」という選手たち一人ひとりの強い気持ちがあつたからこそ成し得たことだと思います。甲子園では、奄美人（あまみんちゅ）が一体化して日本一の応援する中、堂々と元気よく見せつづれ

取り過ぎが原因です。「言葉は、使い方を誤ると、親密な人間関係を失う場合もあります。」「口より入る病」、「一つの言葉」は、人間関係の最重要問題であります。「一つの言葉」を考えてまいりましょう。

○ひとつのかんかして、仲直り。  
○ひとつのかん葉で頭が下がり、笑いあい。  
○人は、一つのかん葉で泣かされる。  
○ひとつのかん葉それぞれに一つの

心を持っている。  
○ひとつの言葉は、きれいな心。  
○ひとつの言葉は、やさしい心。  
○ひとつの言葉を大切に。  
○ひとつの言葉を美しく。  
○長命の人の共通点を考えてみると、共通点があります。  
○はつらつと生きる心で強い決意がみなぎっている。  
○周りの人々への感謝の心を持つている。  
○歌を口づさみ、よく笑う。